

Q2

2017年3月期 第2四半期決算概要

株式会社プロトコーポレーション (4298:JP)
2016年10月28日



連結主要データ

発行済株式総数 (百万株)		20.9
時価総額(億円)	※2016年9月末	245.4
1株当たり年間配当(円)	※2017年3月期予想	50.0
1株当たり当期純利益(円)	※2017年3月期予想	72.35
1株当たり純資産(円)	※2016年3月期実績	1,286.93
ROE(%)当期純利益ベース	※2016年3月期実績	▲1.5
ROA(%)経常利益ベース	※2016年3月期実績	10.1
自己資本比率(%)	※2016年3月期実績	63.6
潜在株式数		-
外国法人等の株式保有比率(%)	※2016年9月末	29.5

大株主 (上位10名)

	(千株)
1) 株式会社夢現	6,807 (32.50%)
2) JPMCC CLIENT SAFEKEEPING ACCOUNT	1,323 (6.31%)
3) 株式会社プロトコーポレーション	881 (4.20%)
4) BNYM TREATY DTT 10	587 (2.80%)
5) JP MORGAN CHASE BANK 385632	563 (2.69%)
6) CLEARSTREAM BANKING S.A	494 (2.36%)
7) 横山博一	440 (2.10%)
8) 横山順弘	394 (1.88%)
9) BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	388 (1.85%)
10) 益田武美	313 (1.49%)

(2016年9月30日現在)

2017年3月期 第2四半期 連結業績（1）

(単位：百万円)	2015年4-9月		2016年4-9月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	売上比	計画(b)	売上比	実績(c)	売上比	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
売上高	26,317	100.0%	27,170	100.0%	26,399	100.0%	81	100.3%	▲770	97.2%
売上原価	15,764	59.9%	16,367	60.2%	15,897	60.2%	133	100.8%	▲469	97.1%
売上総利益	10,553	40.1%	10,803	39.8%	10,501	39.8%	▲52	99.5%	▲301	97.2%
販売費及び一般管理費	8,332	31.7%	9,642	35.5%	9,162	34.7%	829	110.0%	▲479	95.0%
EBITDA	3,231	12.3%	2,049	7.5%	2,199	8.3%	▲1,032	68.1%	149	107.3%
営業利益	2,220	8.4%	1,161	4.3%	1,338	5.1%	▲882	60.3%	177	115.3%
経常利益	2,301	8.7%	1,167	4.3%	1,306	4.9%	▲995	56.7%	139	111.9%
四半期純利益	1,244	4.7%	634	2.3%	702	2.7%	▲542	56.4%	68	110.8%
1株当たり四半期純利益 (円)	61.36	-	31.54	-	34.93	-	▲26.43	56.9%	3.39	110.7%

※2017年3月期の計画値は、2016年5月13日公表の数値であります。（以下同様）

※2017年3月期の「1株当たり四半期純利益」の計画値については、2016年5-6月に実施した自己株式取得による影響を反映しております。

※EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出しております。

(単位：百万円)	2015年4-9月		2016年4-9月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	売上比	計画(b)	売上比	実績(c)	売上比	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
販売費及び一般管理費	8,332	31.7%	9,642	35.5%	9,162	34.7%	829	110.0%	▲479	95.0%
人件費	3,845	14.6%	4,333	16.0%	4,009	15.2%	163	104.3%	▲324	92.5%
広告宣伝費関連	1,237	4.7%	2,055	7.6%	2,032	7.7%	795	164.3%	▲22	98.9%
その他	3,250	12.3%	3,252	12.0%	3,120	11.8%	▲129	96.0%	▲132	95.9%
人員数 (名)	1,497名	-	1,692名	-	1,598名	-	101名	106.7%	▲94名	94.4%

※広告宣伝費関連は「広告宣伝費+販売促進費」

2017年3月期 第2四半期 連結業績（2）

売上高	前年並み（前期対比100.3%）・計画未達（計画対比97.2%） 主に(株)バイクプロスのバイクパーツ・用品のEC販売が前年を下回ったものの、(株)プロトメディカルケアの福祉用具レンタルサービス事業が堅調に推移したことなどから、前期対比では81百万円の増収（100.3%）となった。 また、主に(株)オートウェイのタイヤ販売数量・販売単価が計画を下回ったことに加え、(株)バイクプロスのバイクパーツ・用品のEC販売が計画を下回ったことなどから、計画対比では97.2%となった。
売上総利益	前年並み（前期対比99.5%）・計画未達（計画対比97.2%） (株)オートウェイの仕入コスト削減・為替環境の改善等により増益となったものの、(株)プロトコーポレーションにおいて「Goo鑑定」の強化を目的とした施策等により、前期対比では52百万円の減益（99.5%）となった。 また、計画対比では97.2%となった。
販売費及び一般管理費	増加（前期対比110.0%）・計画下振れ（計画対比95.0%） 主に(株)プロトコーポレーションにおいて「ID車両（Goo鑑定車＋メーカー認定中古車）」の認知向上を目的とした広告宣伝費が増加したこと、(株)プロトメディカルケアにおける事業規模拡大に伴い人件費等が増加したことなどから、前期対比では829百万円の増加（110.0%）となった。 一方、主に(株)プロトコーポレーション・(株)プロトメディカルケアにおける人件費が計画を下回ったことなどから、計画対比では95.0%となった。
営業利益	減益（前期対比60.3%）・計画上振れ（計画対比115.3%） 主に(株)プロトコーポレーションにおいて、「ID車両」に係る広告宣伝費が増加したことなどから、前期対比では882百万円の減益（60.3%）となった。また、計画対比では115.3%となった。
四半期純利益	減益（前期対比56.4%）・計画上振れ（計画対比110.8%） 前述の要因などにより、前期対比では542百万円（56.4%）の減益となった。また、計画対比では110.8%となった。

2017年3月期 第2四半期 連結業績：セグメント別（1）

売上高 (単位：百万円)	2015年4-9月		2016年4-9月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	構成比	計画(b)	構成比	実績(c)	構成比	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
自動車関連情報	24,007	91.2%	24,387	89.8%	23,614	89.5%	▲393	98.4%	▲772	96.8%
広告関連	10,378	39.4%	10,612	39.1%	10,358	39.2%	▲20	99.8%	▲253	97.6%
情報・サービス	2,481	9.4%	2,603	9.6%	2,457	9.3%	▲23	99.1%	▲145	94.4%
物品販売	11,148	42.4%	11,171	41.1%	10,798	40.9%	▲349	96.9%	▲373	96.7%
生活関連情報	1,647	6.3%	2,102	7.7%	2,107	8.0%	459	127.9%	5	100.3%
不動産	80	0.3%	83	0.3%	89	0.3%	8	110.5%	6	107.3%
その他	581	2.2%	597	2.2%	587	2.2%	6	101.1%	▲9	98.4%
合計	26,317	100.0%	27,170	100.0%	26,399	100.0%	81	100.3%	▲770	97.2%

営業利益 (単位：百万円)	2015年4-9月		2016年4-9月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	利益率	計画(b)	利益率	実績(c)	利益率	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
自動車関連情報	2,805	11.7%	1,871	7.7%	1,880	8.0%	▲925	67.0%	9	100.5%
生活関連情報	182	11.1%	231	11.0%	295	14.0%	113	162.1%	64	128.0%
不動産	55	68.0%	50	60.9%	68	76.7%	13	124.6%	17	135.2%
その他	▲23	-	▲80	-	▲57	-	▲33	-	22	-
管理部門	▲798	-	▲911	-	▲848	-	▲50	-	62	-
合計	2,220	8.4%	1,161	4.3%	1,338	5.1%	▲882	60.3%	177	115.3%

2017年3月期 第2四半期 連結業績：セグメント別（2）

自動車関連情報

売上高：減収（前期対比98.4%）・計画未達（計画対比96.8%）

広告関連：グーネット（MOTOR GATE）の取引社数拡大は堅調に推移したものの、海外子会社2社（マレーシア・台湾）の広告収入が前年を下回ったことなどから、前期対比99.8%となった。また、海外子会社の広告収入が計画を下回ったことに加え、Goo買取及びGooPitの売上高が計画を下回ったことなどから、計画対比では97.6%となった。

情報・サービス：（株）プロトコーポレーションのDataLine SalesGuide（新車ディーラー向け商談ツール）による売上高が前年を上回って推移したものの、主に（株）プロトリオスの整備業界向けシステム販売が前年を下回ったことなどから、前期対比99.1%となった。また、（株）プロトリオスの売上高が計画を下回ったことなどにより、計画対比では94.4%となった。

物品販売：主に（株）バイクプロスのバイクパーツ・用品のEC販売が前年を下回ったことなどから、前期対比96.9%となった。また、主に（株）オートウェイのタイヤ販売単価・販売数量が計画を下回ったことなどから、計画対比では96.7%となった。

営業利益：減益（前期対比67.0%）・ほぼ計画並み（計画対比100.5%）

主に、（株）プロトコーポレーションにおける「ID車両」プロモーション強化に伴う広告宣伝費の増加等により、前期対比925百万円の減益(67.0%)となった。また、（株）プロトリオスの整備業界向けシステム販売による営業利益が計画を下回ったものの、為替環境の改善により（株）オートウェイの売上総利益が計画を上回ったことに加え、（株）プロトコーポレーション及び（株）カークレドの人件費・その他経費が計画を下回ったことなどから、計画対比では100.5%となった。

生活関連情報

売上高：増収（前期対比127.9%）・ほぼ計画並み（計画対比100.3%）

主に医療・介護・福祉分野において、（株）プロトメディカルケアが2016年1月に子会社化した（株）丸富士、（株）シルバーはあとの福祉用具レンタルサービス事業が寄与したことに加え、広告関連事業が堅調に推移したことなどから、前期対比127.9%となった。また、計画対比100.3%となった。

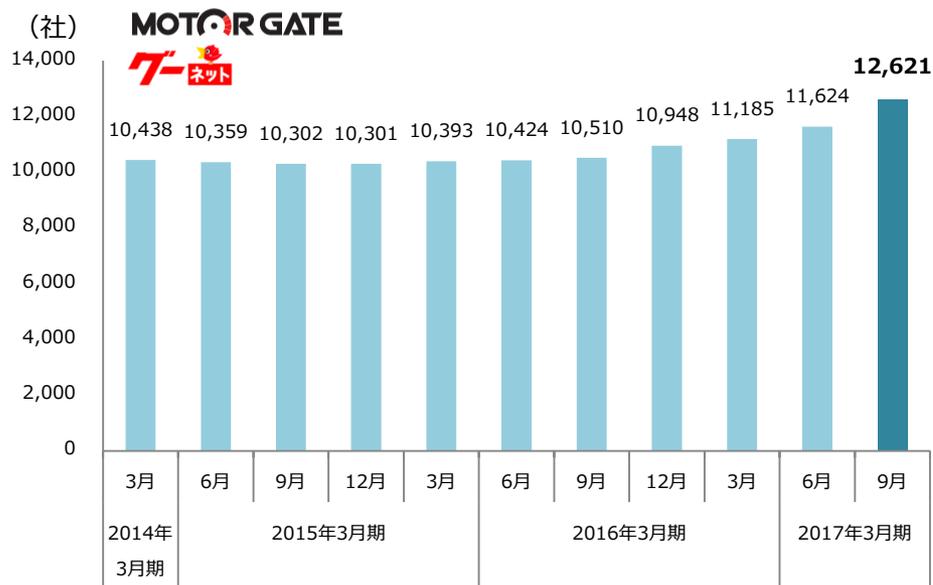
営業利益：増益（前期対比162.1%）・計画上振れ（計画対比128.0%）

（株）プロトコーポレーションのカルチャー情報事業及び（株）プロトメディカルケアが増益となったことに加え、（株）プロトソリューション（旧（株）プロトデータセンター）の不動産情報事業「GooHome」の損益が改善したことなどから、前期対比162.1%となった。

また、主に（株）プロトメディカルケアの福祉用具レンタルサービス事業が計画を上回ったことなどから、計画対比128.0%の計画上振れとなった。

中古車販売店取引社数の推移

■ MOTOR GATE（グーネット）取引社数の推移



■ MOTOR GATE取引社数（中古車販売店）

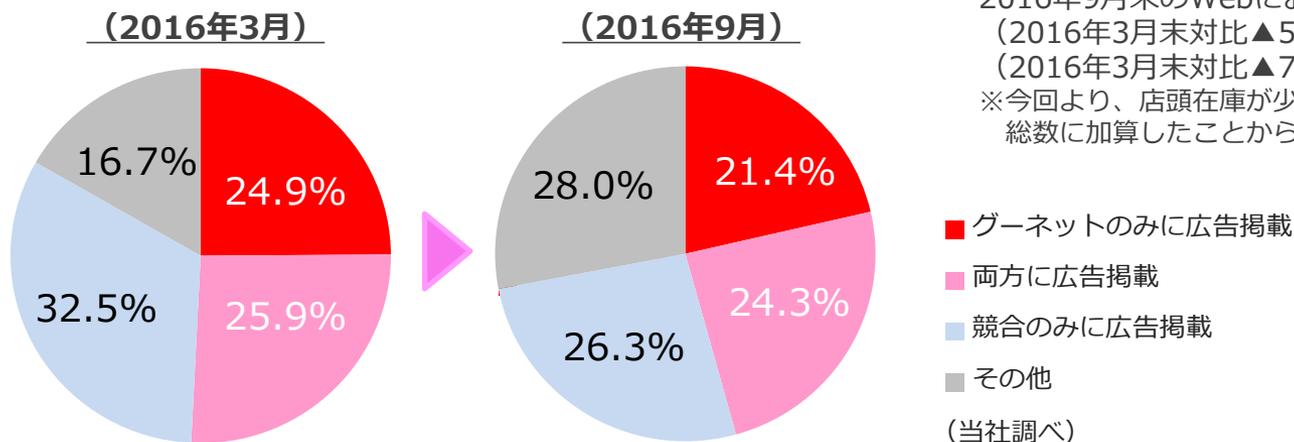
2016年4-9月の新車販売台数は230万台（前期対比99.0%）と引き続き厳しい市場環境となり、中古車登録台数は318万台（前期対比100.8%）と前年並みとなった。

このような市場環境の中、当社ではプロモーション強化をはじめ、有力サイト・メディアとの連携強化により、ユーザー接点の拡大を進めるとともに、営業効率の改善等により取引社数の拡大に努めた結果、2016年9月末のMOTOR GATE取引社数は12,621社（前四半期対比+997社）となった。

■ 今後の中古車流通市場について

中古車流通市場においては、新車販売の低迷に伴い、中古車の下取り台数も低水準に留まっているものの、第2四半期以降においては第1期エコカー補助金（2009年4月10日～2010年9月7日）から7年目の車検の時期を迎えることなどから、緩やかな回復を見込む。

■ グーネット取引社数シェア（Web）



■ グーネット取引社数シェア（中古車販売店）

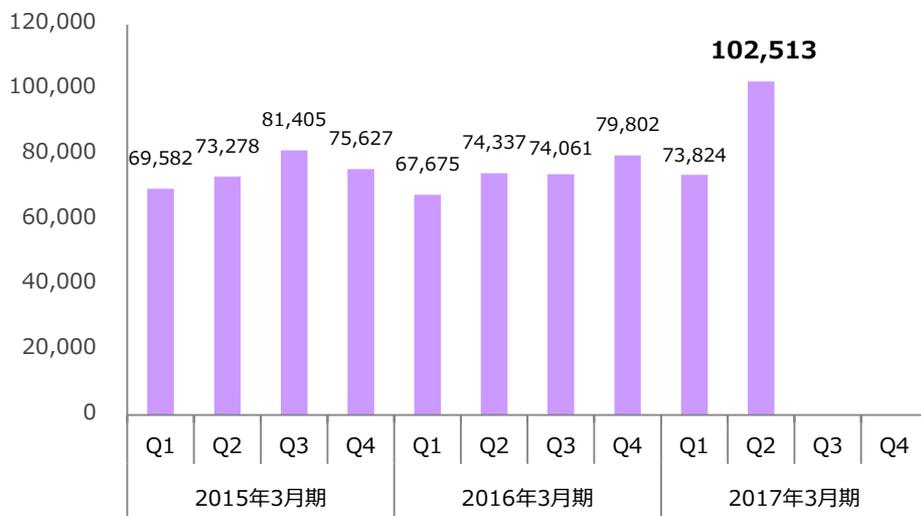
2016年9月末のWebにおける取引社数シェアは、当社45.7%（2016年3月末対比▲5.1ポイント）に対し、競合50.6%（2016年3月末対比▲7.8ポイント）となった。

※今回より、店頭在庫が少ない中古車販売店についても、マーケット総数に加算したことから、その他の構成比が増加しています。

Goo鑑定実施台数等の推移

■ Goo鑑定実施台数の推移

(台)

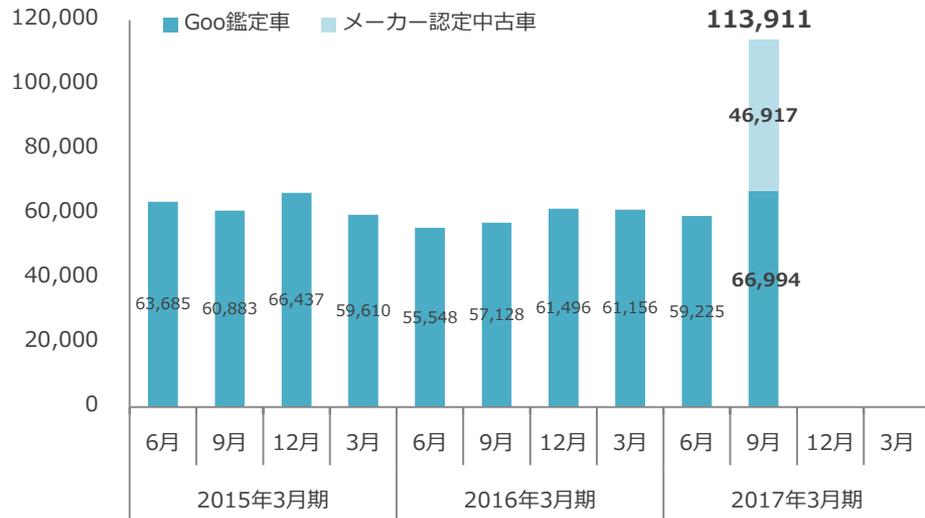


■ Goo鑑定実施台数（国内四輪）

2016年7-9月のGoo鑑定の実施台数は102,513台（前年同期対比137.9%）となり、計画対比においても11,123台の計画上振れとなった。

■ グーネット上の車両状態情報開示台数の推移

(台)



■ グーネット上の車両状態情報開示台数

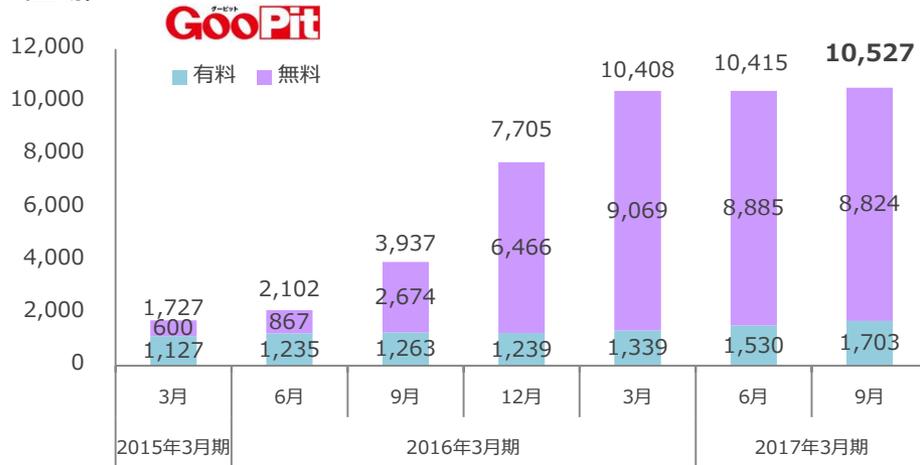
車両状態情報を開示したGoo鑑定車及びメーカー認定中古車を総称し、2016年8月18日より「ID車両」としてリリースしており、競合との差別化の軸として下半期も台数拡大に努める。

2016年9月末時点のGoo鑑定表示台数は66,994台（前年同期対比117.3%）となった。また、メーカー認定中古車の2016年9月末時点の表示台数は46,917台となった。

整備工場・新車ディーラー取引社数等の推移

■ GooPit取引工場数の推移

(工場)



■ GooPit 取引工場数 (整備工場)

2016年9月末の取引工場数は10,527工場となった。内訳としては、有料取引工場数は1,703工場（前四半期対比+173工場）、無料取引工場数は8,824工場となった。

なお、今期はGooPitの無料契約から有料契約へのアップセル営業に注力しており、第2四半期より開始したGooPit有料契約のトライアル提案等を通じてGooPitの有料化を推進し、期末目標の有料取引工場数3,000工場を目指す。

■ DataLine SalesGuide導入拠点数の推移

(拠点)



■ DataLine SalesGuide導入拠点数 (新車ディーラー)

2016年9月末の導入拠点数は3,294拠点（前四半期対比+219拠点）となった。上半期については、一部新車ディーラーにおける導入延期等が発生したことなどから導入拠点数の計画値を若干下回った。

今期は引き続き大手新車ディーラーへの営業強化を図り、期末目標の導入拠点数4,000拠点を目標とする。

TOPICS

2016.8.18 「ID車両」サービスイン （中古車領域）

【目的】ユーザーが安心・納得して中古車を購入できる環境創りを通じた「中古車の価値向上」の実現

2016.8.22 「Goo車検」サービスイン （整備領域）

【目的】整備工場の非稼働時間を活用した車検サービスの提供

2016.9.1 Goo首都圏版・東海版・関西版の月刊化 （中古車領域）

【目的】刊行サイクルの見直しによるコスト削減

2016.9.2 LINE業務提携 （中古車領域）

【目的】ユーザー接点の拡大

2016.9.7 「DataLine ロボ査定」サービスイン （新車領域）

【目的】価格データの新たな活用

2017年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2016年3月期 期末		2017年3月期 第2四半期末		増減	
	実績(a)	構成比	実績(b)	構成比	(b)-(a)	%
流動資産	22,073	54.0%	24,552	56.7%	2,479	111.2%
固定資産	18,812	46.0%	18,748	43.3%	▲64	99.7%
流動負債	11,805	28.9%	14,093	32.5%	2,288	119.4%
固定負債	3,079	7.5%	3,174	7.3%	95	103.1%
純資産	26,001	63.6%	26,032	60.1%	31	100.1%

(単位：百万円)	2016年3月期 期末		2017年3月期 第2四半期末		増減	
	実績(a)	構成比	実績(b)	構成比	(b)-(a)	%
現金及び預金	11,688	28.6%	12,869	29.7%	1,181	110.1%
有利子負債	6,618	16.2%	7,449	17.2%	831	112.6%
ネットキャッシュ	5,069	12.4%	5,420	12.5%	350	106.9%

流動資産 主に営業キャッシュ・フローの獲得により現金及び預金が増加したことなどから、2,479百万円の増加となった。

固定資産 主に減価償却費及びのれん償却額の計上、長期預金の払戻などにより、64百万円の減少となった。

流動負債 主に(株)オートウェイ、(株)タイヤワールド館ベスト、(株)キングスオートの短期借入金が増加したことなどから、2,288百万円の増加となった。

固定負債 前連結会計年度末と比較して95百万円の増加となった。

2017年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2015年4-9月	2016年4-9月	増減
	実績(a)	実績(b)	(b)-(a)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,629	1,676	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,880	▲798	1,081
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲681	408	1,089
現金及び現金同等物の期末残高	11,091	12,468	1,377

(単位：百万円)	2015年4-9月	2016年4-9月	増減
	実績(a)	実績(b)	(b)-(a)
投資額（有形・無形固定資産）	2,139	855	▲1,283
減価償却費	493	539	46
のれん償却額	517	320	▲196

営業活動によるキャッシュ・フロー

主に税金等調整前四半期純利益1,279百万円、減価償却費及びのれん償却額の合計が860百万円発生したことなどから、1,676百万円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に固定資産の取得による支出が838百万円発生したことなどから、798百万円の支出となった。

財務活動によるキャッシュ・フロー

主に前期期末配当金の支払が395百万円、自己株式の取得による支出が198百万円発生したものの、短期・長期借入金の純増加額が831百万円発生したことなどから、408百万円の収入となった。

Appendix

会社概要

社名	株式会社プロトコーポレーション
創業	1977年10月1日
設立	1979年6月1日
資本金	1,824,620,000円（2016年9月30日現在）
発行済株式総数	20,940,000株（2016年9月30日現在）
本社	〒460-0006 名古屋市中区葵一丁目23番14号 〒113-0033 東京都文京区本郷二丁目22番2号
支社	札幌、仙台、高崎、長野、浜松、名古屋、金沢、大阪、広島、松山、福岡、熊本 (全国56拠点)
事業年度末	3月31日
社員数	連結：1,598名（2016年9月30日現在） 単体：654名（2016年9月30日現在）
上場取引所	東京証券取引所JASDAQスタンダード（2001年9月12日 上場）



月刊中古車通信 1977年創刊

連結子会社	1.株式会社プロトリオス	【2002年10月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	2.株式会社プロトソリューション※	【2007年 4月設立】	(議決権所有割合：直接 100%)
	3.株式会社プロトメディカルケア	【2009年10月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	4.株式会社バイクプロス	【2010年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	5.株式会社カークレド	【2012年 2月設立】	(議決権所有割合：直接 100%)
	6.株式会社キングスオート	【2012年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	7.株式会社オートウェイ	【2013年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	8.株式会社タイヤワールド館ベスト	【2015年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	9.株式会社丸富士	【2016年 1月子会社化】	(議決権所有割合：間接 100%)
	10.株式会社シルバーはあと	【2016年 1月子会社化】	(議決権所有割合：間接 100%)
	11.PROTO MALAYSIA Sdn. Bhd.	【2011年 9月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
	12.台湾寶路多股份有限公司	【2011年12月設立】	(議決権所有割合：直接 100%)
	13.CAR CREDO MALAYSIA SDN. BHD.	【2015年 8月設立】	(議決権所有割合：間接 100%)
	14.PT. PROTO INDONESIA (清算手続き中)	【2012年12月設立】	(議決権所有割合：直接 75%、間接 25%)
	(2016年10月1日現在)		
	※2016年10月1日付にて、(株)プロトデータセンター(存続会社)と(株)アイソリューションズ(消滅会社)が合併し、(株)プロトソリューションに商号変更しております。		

連結業績（10年推移）

（単位：百万円）	2007年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
売上高	21,238	22,893	23,657	25,682	28,779	30,582	38,287	54,761	48,602	54,297
営業利益	2,988	3,771	5,384	6,098	6,111	5,846	4,209	4,735	4,233	4,071
当期純利益	1,766	1,838	3,187	3,529	3,197	3,275	2,290	2,627	2,381	▲ 390
EBITDA * 1	3,360	4,078	5,628	6,490	6,856	6,540	5,161	6,483	6,039	6,149
調整後当期純利益 * 2	1,890	1,915	3,223	3,621	3,620	3,680	2,836	3,555	3,308	641
減価償却費	247	230	207	299	322	288	404	819	879	1,046
のれん償却額	124	77	36	91	422	405	546	928	926	1,032

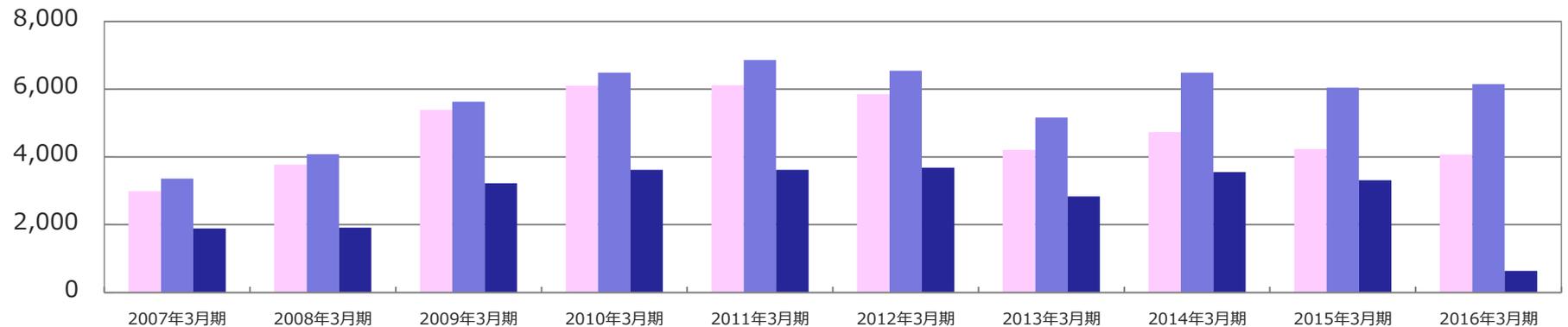
*1 EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出しております。

*2 調整後当期純利益は、「当期純利益+のれん償却額」にて算出しております。

営業利益・EBITDA・調整後当期純利益の年次推移

（単位：百万円）

■ 営業利益 ■ EBITDA ■ 調整後当期純利益



※ 本資料に記載の金額は、全て百万円未満を切り捨てて表示しております。

◆将来予測について

本資料で提供されているIR情報には、将来の見通しに関する情報が含まれています。

これら歴史的事実以外の情報は、当社グループが属する業界の競争、市場、諸制度に係るリスクや不確実性による影響を受ける可能性があります。その結果、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び推測に基づく見込みは、将来における実際の成果及び業績とは異なる場合があります。ご承知おきください。

◆本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先

株式会社プロトコーポレーション 経営企画室 高林、金子

Tel : 052-934-1519

Mail: 4298ir@proto-g.co.jp